

協力会だより 第41号

発行 山梨県立考古博物館協力会 〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923 電話(055)266-3881
発行日 平成 29 年 5 月 2 日発行 協力会ホームページ <http://www.y-kyouryokukai.jp/>



平成 28 年度 協力会の 1 年



活 動

- 平成 28 年度考古博物館協力会総会 (4/16)
- ミュージアムショップ
- ボランティアガイド
- 第 28 回風土記の丘こどもまつり (5/4・5)
- 学校勾玉づくり体験補助 (5~10月)
- Jomon FES-山梨縄文まつり- (10/30)
- 竪穴住居でおはなし会 (11/6)
- 県民の日イベント-SAMURAI まつり- (11/20)
- 古代のもちつき (1/9)
- 考古博物館春まつり (3/5)
- 第 34 回特別展 (9/28~11/23)
- 特別展準備作業 (9/20・21)
- 常設展復旧作業 (11/27・28)

研 修

- 勾玉作り体験補助研修 (4/21)
- ボランティアガイド研修 (前期: 6/12・17)
(後期: 8/6・9)
(実習: 2/25・28)
- 春季企画展勉強会 (5/14・17)
- 夏季企画展勉強会 (8/6・9)
- 特別展勉強会 (10/11・15)
- 県内研修 (12/11)
- 県外研修 (3/25)

平成28年度 山梨県立考古博物館協力会・総会

4月15日に平成28年度山梨県立考古博物館協力会総会が開かれました。多くの協力員が出席する中、今年度の活動内容が確認され、気持ちも新たに活動をスタートさせることができました。ボランティアガイド証の交付式では新たに4名がボランティアガイドに、1名がガイドマスターとなり、今後さらに活発な活動が期待されます。また、10年の長きにわたり活動いただいた4名の方に感謝状が、昨年度多くの出勞をいただいた8名の方に感謝の品がそれぞれ贈られました。

総会の後は、恒例の記念講演が行われました。今回は考古博物館のOBでもあり今年度新たに協力会に加わった保坂康夫さんにご講演いただきました。『ホモ・サピエンスはヒョウタンをもってアフリカを旅立った』と題し、人類の始まりの話から、人類がアフリカから世界各地へ移動していく過程、その中でどうヒョウタンが関係するかなど、とても興味深い内容を、ときおりユーモアを交えながらお話いただきました。

来館者のみなさまに「来てよかった」「楽しかった」といっていただけるような博物館にするために協力をしていくこと、そして協力員自身が考古博物館で学び、楽しむことを確認できた総会となりました。



考古博物館 第34回特別展 よみがえる武士の魂 —鎌倉・平泉と甲斐源氏の武家文化—



9月28日(水)～11月23日(水)の57日間、第34回特別展「よみがえる武士の魂—鎌倉・平泉と甲斐源氏の武家文化—」が開催されました。甲斐源氏ゆかりの出土品はもちろん、鎌倉・平泉の貴重な資料も展示し、武家文化に焦点を当てたこの特別展には、県内外から多くの方にご来館いただき、来館者数は6,000名を超えました。

協力会にとっても、1年の中で一番大きな仕事です。展示室の監視やミュージアムショップでの販売、常設展の受付など、期間中は毎日当番制で活動しました。また、展示の入れ替え作業にも協力し、展示品やケースの移動、パネルの張り替えなど、普段はできない舞台裏の仕事を手伝いました。その他、期間中のイベントやボランティアガイドなど様々な形の協力があり、特別展も無事成功させることができました。

下の写真は一般公開に先駆けて行われたオープニングセレモニーの様子。多くのお客様をお招きして、盛大に開催されました。もちろん協力員のみなさんにもご出席いただきました。



▲セレモニーの後は、特別展を見学。館長や学芸員が解説する中、熱心に見学をしている協力員のみなさん。

協 力 員 の 活 躍 ～1年間の活動から～

山梨県立考古博物館では、1年を通して様々なイベントや教育普及活動を行っています。協力会では様々な形でこうした事業に協力し、活動しています。今年度も多くのイベントでものづくりや体験のお手伝い、展示ガイドや来館者の案内などを行いました。



風土記の丘子どもまつり（5/4・5）

5月の子どもまつりは親子で楽しめる催しがいっぱい。協力員も火起こし体験や勾玉づくりのお手伝いをしたり、縄文スープを振る舞ったりとてんてこ舞い！！今年は延べ32名が出発し、忙しくも楽しい2日間でした。



県民の日「SAMURAIまつり」（特別展関連 11/20）

武士にちなんだ様々なブースがならんだ「SAMURAIまつり」。来館者 1,500 人を超える中、各ブースで受付をしたり、作り方を教えたりと協力員が大活躍！！



Jomon FES—山梨縄文まつり—（10/30）

県内7館で構成する縄文王国山梨のイベントもお手伝いしました。実行委員長を長澤会長が務め、7名の協力員がお手伝いに！！甲府駅北口広場が縄文一色になりました。



▲考古博 de 春まつり「なぞ解き考古博」のお手伝い！！

▲おはなし会や陶器づくりの先生として活躍！！

ともに学ぶ ～ 勉強会・研修会を開催しています～

今年度も協力員を対象とした様々な勉強会・研修会を行い、みんなで学び合うことができました。

■企画展・特別展 勉強会

春季・夏季企画展・特別展開催時には、学芸員が解説する勉強会を開催しました。さすがは協力員のみなさん。展示を見る目は真剣、するどい質問も飛び出します。学芸員からの裏話？あり、熱い議論？！ありの有意義な勉強会となりました。

■ボランティアガイド研修

ボランティアガイドのみなさんが、3回に渡って研修をうけました。学芸員による前期の座学・後期の展示解説に続き、最後は実際に解説をする実習を行いました。日進月歩する考古学の研究、ガイドのみなさんも日々研鑽を積み、知識や技術を磨いています。

■勾玉づくり研修

学校向けに実施している勾玉づくりの指導補助を行うため、協力員自身も研修を受け、作り方や指導のポイントを学びます。参加者のみなさんは「これでちゃんと教えられるね。」「前より自分もうまくつくれたよ。」と学ぶ楽しさを実感しているようでした。



県外研修 in ぐんま

— 保渡田古墳群・かみつけの里博物館・群馬県立歴史博物館 —

開催日：平成29年3月25日（土）

今年度の県外研修は、来年度の特別展に関連して、東国古墳文化の中心地ともいえる群馬県を訪れ、古墳文化の発展や古墳時代の社会像について学びました。約6,000体の埴輪に囲まれた保渡田八幡塚古墳、その内部にある「舟形石棺」、個性豊かな形象埴輪や当時の豪族館からの出土品、リニューアルした群馬県立歴史博物館ではNHKの番組にも取り



上げられた「甲を着た古墳人」や群馬県の古墳総合調査の結果をみることができ、「古墳文化」にどっぷりとりつき、充実した研修となりました。ここで、研修に参加されたみなさんの研修記をご紹介します。



▲かみつけの里博物館では埴輪のお出迎え。丁寧な説明に、協力員のみなさんも熱心に耳を傾けます。

大久保 長仁さん

古墳時代の古墳に供えられた埴輪として、日本一の量を誇る群馬県を訪れました。なかでも、八幡塚古墳は 1,500 年前の当時の姿を完全に復元され、約 6,000 体の埴輪が並べられていて、とても感動的でした。

群馬県立歴史博物館は、平成28年にリニューアルオープンされ、原始・古代から現在まで、わかりやすく展示されていました。特に、「甲を着た古墳人」また、発掘データから復元した古墳時代の水田模型等は圧巻でした。

今年グランドオープンが7月に行われ、重要文化財が展示されるということなので、もう一度行きたいと思っています。

内藤 敏夫

群馬県高崎市内かみつけの里博物館、保渡田古墳群、群馬県立歴史博物館への研修を終えて、「古墳王国群馬県」を象徴していることがよくわかりました。

群馬県内の古墳は、13,000 基余りあり、5世紀後半から6世紀初頭に築造された東日本最大の古墳群がある。榛名山の数回の噴火によって、火山灰に覆われたので、多くの遺跡がリアルに復元できたということを知りました。発掘された後円内の舟形石棺や埴輪群像は、当時の生活の様子が表現され、圧倒されました。今秋開催の古墳時代の特別展を楽しみにしています。

他の協力員さんとも事務局のみなさんとも、1日楽しく過ごし、よい思い出になりました。



北村 正仁さん

今回の研修に参加して、かつて住んでいた群馬県に、東日本最大、1万基以上もの古墳があったことに驚きました。特に、研修場所にあった「かみつけの里博物館」の雄大な山々を背景に造られた、3基の前方後円墳には、私の血が騒ぐほど興奮しました。(古墳だけに！)

次に訪れた群馬県立歴史博物館で見た、榛名山の噴火による噴出物により、甲冑を付けたまま、まるで礼拝をしている姿で発見された古墳武士には、本当に驚きでした。7月の完全リニューアルオープンが楽しみです。

群馬県にはまだまだ多くの古墳があり、県外研修の場として、これからも計画していただければありがたいと思います。本当に楽しく、勉強になりました。

藤原 尚美さん

私にとって群馬県は、比較的身近にあります。なぜなら、息子が前橋市に16年間住んでいるからです。しかし、私の家族はあまり歴史に興味がなく、群馬県を訪れても自宅との往復に終始していました。今回、かねてから行きたかった、かみつけの里博物館や保渡田古墳群、群馬県立歴史博物館を訪ねることができて感謝しています。

かみつけの里博物館では、三ツ寺1遺跡で見つかった古墳時代の有力者の居宅や大型建物、まつりの場に驚かされました。この地域は、火山灰に覆われて、古墳時代の状況がよくわかる遺跡が多く残されていることを知り、今後のさらなる調査に期待がふくらみます。

保渡田古墳群では、墳丘に登り、八幡塚古墳の埴輪群像・四つの中島・舟形石棺や二子山古墳の舟形石棺・四つの中島などを見学しました。遠くに浅間山や榛名山、赤城山が望まれ、人々が見ていただろう風景に、その当時の生活を想像しました。

群馬県立歴史博物館では、なんとと言っても渋川市の金井東裏遺跡から見つかった「甲を着た古墳人」の展示に目がくぎ付けになりました。発見された人がどのような人で、どのような生活をしていたのかなど、古墳時代の群馬に興味がわきました。

研修旅行に参加し、群馬の古墳時代を学んだことで、甲斐国の古墳時代をもっと知りたいと思いました。ありがとうございました。

杉野 美幸さん

協力会のはじめての旅行が群馬県立歴史博物館でした。育児中で毎日が奮闘だったこともあり、教育の目線でみてしまいます。故野口先生を師匠に学びを深め、今また、大人の修学旅行の気持ちで新たに楽しめました。やはり子どもが多く、学びとして活かされています。ゆるキャラぐんまちゃんも大活躍、違いを楽しめ、ガイドとしての楽しみ・趣向を同じくする、同志でもあり人生の先輩方との触れ合いは子育ての部分でも学ぶことが多く、実りある研修旅行となりました。やはり「ほんもの」を知った上での、触れて体感できる学びは大切！！

今は地域に根ざした役回りにめぐまれて、少し博物館やガイドから離れた生活になってはいますが、協力会は私の原点でパワースポット。縄文育児であたたかく見守ってくださっている仲間にもまれ、久々にゆったりと有意義な時間を過ごせました。

梶 月美さん

今回の研修先は、榛名山の火山災害が残した「タイムカプセル」のようなところでした。

たくさんの埴輪の種類、配列、大きな石棺など、多数の出土品や展示を見て、当時の様子をいろいろ想像できました。

歴史博物館では、本物のきれいな埴輪が間近に見られてうれしかったです。「甲を着た古墳人」は、機会があったら本物を見たいと思いました。

楽しい1日をありがとうございました。



★研修記、ありがとうございました。

県内研修 in 甲斐市

なかまきづか —中秣塚古墳・大塚古墳・天狗沢瓦窯跡—

今年度の県内研修は、冬季企画展「甲斐市の出土品」や来年度の特別展のテーマに関連して、甲斐市の古墳と遺跡を巡りました。12月半ばということで寒さも心配されましたが、当日は天気もよく、穏やかな陽気の中、職員も含め15名が参加し、和気あいあいと楽しく学ぶことができました。

「こんなところに古墳があったんだね!!」と驚いたり、「こんな風になっているんだね」と石室の造りに感心したりと、やはり、実際に行ってみることで分かることがたくさんありました。また、考古博物館に展示している資料が出土した遺跡を見ることで、理解を深めることができました。山梨県内にもまだまだ見所はたくさんあります。次はどこに行きましょう? 乞う、ご期待!!



↑きれいに整備された中秣塚古墳。ドラゴンパークの駐車場横にあります。講師は小林学芸員が努めました。みなさん、熱心です!!



↑石室内をのぞいてみます。興味津々!!



大塚古墳は敷島南小学校の隣。石室はむき出しになっていて、中も見ることができます。

中に入ると石室内部の造りや石の積み方がよくわかります。「秘密基地っぽいね!!」なんて声もありました。



天狗沢瓦窯跡。この窯の瓦はいつたどこで使われていたのか? まだ分かっていません。



みんなでてくてく。



わたしたちがご案内します！！ — 考古博物館 ボランティアガイド —



考古博物館協力会では、指定された研修を受けた協力員が「ボランティアガイド」として活動しています。土日・祝日や、夏休み期間などを中心に、ご希望されるお客様に常設展の解説をしています。



ガイドスタッフは、日頃から考古学について熱心に学んでいて、知識も豊富です。展示を見ただけでは分からないことや気づかないことも聞くことができます。また、お客様のご希望や状況に合わせて、工夫しながらガイドをしています。そんな努力もあり、多くのお客様から「丁寧に説明してもらって、わかりやすかった。」「知らなかったことがたくさんあって、勉強になった。」と好評をいただいています。

お客様に楽しんでいただくため、そして、山梨の歴史や考古学に少しでも興味をもってもらうため、日々研鑽を積んでいるガイドスタッフ。考古博物館にご来館の際は、ぜひお声をかけてください。



ようこそ、考古博物館へ ～考古博の華たち～

考古博物館のエントランスや受付で、お客様をお迎えしているお花や小物。これらは協力員のみなさんのお手製です。考古博物館を訪れる皆さまに気持ちよく、楽しく過ごしていただきたい、そんな思いが込められています。ご来館の折には、考古博物館を彩る、四季折々の素敵なお花やかわいい小物にもご注目ください。

(生け花:原田みゆきさん 干支の土鈴:北村正仁さん 干支の人形:山地千恵子さん)



◆編集後記◆

28年度の協力会の活動を紹介させていただきました。多くの方々に考古博物館協力会の活動を知っていただき、ご来館いただければ幸いです。協力員の皆さまの熱意とあたたかさに支えられ活動が続けられていることを再認識した28年度でした。本当にありがとうございました。新たなメンバーを迎える29年度もどうぞよろしくお願いいたします。〈事務局〉